

幼児教育長期派遣通信 1 学期号

発行 令和 8 年 7 月 17 日

福山市立手城小学校 松下 由佳（派遣園：福山市立新涯幼稚園）

本年度、「幼児教育長期派遣研修」として福山市立新涯幼稚園で 1 年間研修を行っています。

本研修では、幼児教育の実践を体験することで幼保小接続への理解を深め、組織的な幼保小連携の推進・充実に向けて、環境構成や指導方法、カリキュラムの改善を図っていくことを目的としています。1 学期号では、これまで研修で学んだことを紹介します。

1 1 学期の研修内容

(1) 園内研修

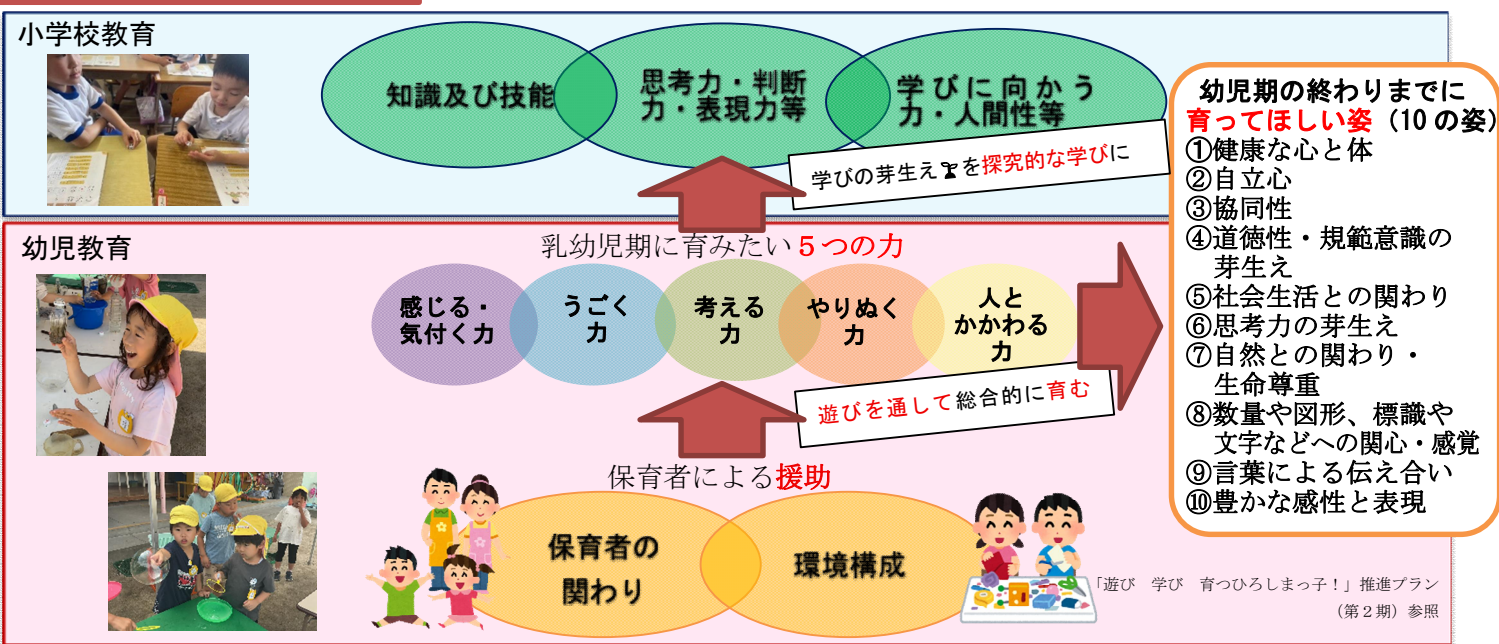
- ・保育観察、補助、園外保育引率補助（年長児クラス） ・保育カンファレンス
- ・エピソード研修 ・幼児教育アドバイザー訪問

(2) 園外研修

- ・スタートカリキュラム参観（手城小学校 他） ・長期派遣研修報告会①
- ・接続に係る研修会 ・幼児教育理解に係る研修会

2 研修を通して

幼児教育・小学校教育のつながり



遊びの中で育まれている力と保育者による援助・小学校教育とのつながりを事例から紹介

事例 1



友達と力を合わせて砂場に穴を掘り、水を溜め、そこに裸足で入って水の冷たさや気持ちよさ、深さなどを楽しんでいる 2 組のグループがいました。A 児の「つながるよ。」の声で 2 つの穴をつなげてみることに。B 児は初め「水がなくなってしまうからつなげないで。」と不安そうにしていたのですが、B 児の作った穴の方へ水が一気に流れ出した様子を見て、B 児も「うわあー！やったー！」と喜び、みんなで笑い合いました。

保育者による援助



不安そうにしていた B 児の気持ちに寄り添いながら一緒に水の行方を見守っていました。B 児が作った穴の方へ水が流れ出すと、「B ちゃんお水増えたね。」と声を掛けました。予想外の結果に、園児と一緒に喜ぶなど、園児と思いを共有していました。（保育者の関わり）

子供の遊びが深まる様子を捉えて片付けの時刻を変更するなど、意図的に時間をマネジメントしていました。水が流れる面白さを子供たちが体験することができたのは、園児が遊びに没頭する時間を確保し、柔軟に対応しているからであると感じました。（環境構成）

感じる・
気付く力

うごく力

人と
かかわる力

① 教科

体全体を使いながら砂や土、水に触れることを楽しむだけでなく、水の量を調節して泥団子やケーキなどの造形物、水を流して海や川に見立てる、水を溜めてかさが増えたり減ったりする様子を楽しむ、友達と協力してトンネルを作るなど、自然物を生かした体験をしています。

(図画工作科1年「すなやつちとなかよし」、理科4年「雨水のゆくえと地面のようす」、理科5年「流れる水のはたらき」)

② 5つの力

自然物(水、砂、土)に、足や手で触れるなどして感覚をより豊かにしていく直接的な体験や、共通の目的をもち、友達と関わりながら気持ちに共感したり、友達との関係を深めたりするようなコミュニケーションに関わる経験を重ねています。

事例2



色水を作ろうと挑戦しているC児。きれいに色が出ている友達の遊び方をよく見ながら、方法を真似て水を入れる器を変えたり、花びらの枚数を増やしたりと試行錯誤しています。「まだ色変わってない。」とつぶやきながらも諦めず色々な方法を試してみるC児。ふと思いついたのか、すりごぎの使い方を変え、花びらをトントンと潰し始めます。すると透明な水がみるみる水色に！やっとできた色水を笑顔で眺めるC児の姿がそこにありました。

考える力

やりぬく力

「色にならん。」というC児に「どうして色が出る人と出ん人がおるんじやろうね。何が違うんかね。」と声を掛け、友達の遊び方を見てC児の中に何か気付きが芽生えるように促し、見守りながら関わっていました。また、色水が成功した時にはC児と共に喜ぶなど、C児の気持ちに共感していました。(保育者の関わり)

子供たちが遊び込める環境にするため、花壇、遊び場、色水グッズ置き場、水道の導線が工夫されていました。長時間遊びに没頭できるように、遊び場にはテントをはっていました。(環境構成)

① 教科

どうすれば色が出るのか容器、水の量、花の種類など、自分の思いついたものを環境の中から選び、試すなどの経験をしています。

(生活科1年「なつはおもしろいことがいっぱい」、図画工作科1年「カラフルいろみず」)

② 5つの力

「どうしたら色が出るだろう。」「2つの色水を混ぜてみたらどうなるだろう。」など探究的に考える力が芽生えています。

事例3



こどもまつりでの当日の役割を決めるため、お店屋さんごとに「お店役①②」に分かれることになりました。全員で何人いるか自分たちで数え、4人と4人に分かれることに気付いた子供たち。どうやって分かれるかの相談が始まります。お互いに案を出し合い、じゃんけん、鬼決めと試してみますが、どれも上手く分かれられません。保育者の助言から、それぞれの意見を聞いてみると、お店役①をしたい友達が5人いることが分かりました。「多いなあ。」と少し悩んだ後、D児が「やっぱ②がいいかも。」と言い、無事4人と4人に分かれることができました。友達の思いを大切に、自分たちの力で全員が納得して分かれることができました。

うごく力

考える力

人と
かかわる力

それぞれの思いを聞いたり、伝えたりしながら話をするができるようになることを大切に、まずは子供たちに委ね、その様子を見守っていました。援助が必要な場面を見極め、間に入り、話が進むよう声掛けを行っていました。(保育者の関わり)

話した内容を子供たちが整理できるよう、保育者が子供たちの言葉を拾いながら文字や絵で計画書としてまとめ、お店の道具近くに掲示していました。子供たちは計画書を見ながら活動を進めていました。(環境構成)

① 教科

自分たちでやりたいことを決めたり、必要感をもって自分たちで相談して役割分担したりするなど、自治的な活動につながる経験をしています。(特別活動)

遊びを通して、数量の違いに気付いたり、等分除・包含除の考え方につながったりする経験をしています。

(算数科1年「10までのかず」、「おなじかずずつわけよう」→算数科3年「わり算」へ)

② 5つの力

思いや考えをお互いに受け止め、安心して話し合える環境の中で折り合いをつけていく経験をしており、小学校以降の話合い活動の土台となっています。

3 まとめ

幼児期の子供たちにとって、遊びそのものが学びにつながっているということが研修を通して分かりました。また、「遊びは学び」となる背景には遊びに没頭したくなるような環境構成や保育者による関わりなどの援助があり、子供たちは安心感をもって思う存分自己の力を発揮していました。

「人・もの・こと」に触れながら、子供たちは日々学びの芽を育てています。今後の研修では、これらの学びの芽を小学校教育へどのようにつなげていくべきか具体的な学習活動について考えていきたいと思っています。

〈乳幼児教育支援センターより〉

幼児期の遊びは、子供たちの認知能力と非認知能力を豊かに育む時間です。これらの力は、小学校以降の学びや生活の基盤となり、子供たちの可能性を広げます。この力をつなぎ、発揮、深化させていくには、園・所と小学校の先生方はどのように連携し、何をつないでいくといいでしょうか。共に考えていきましょう。